

1. 評価報告概要表

作成日 2007年9月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101223
法人名	財団法人 老年病研究所
事業所名	痴呆性老人グループホームひまわり
所在地	群馬県前橋市大友町3-22-9 (電話) 027-253-3311

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年9月12日

【情報提供票より】(19年 8月 19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 16 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	18.5

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての,	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	150,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1600 円		

(4) 利用者の概要(8月 19日現在)

利用者人数	26 名	男性	3 名	女性	23 名
要介護1	8 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.23 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(財)老年病研究所付属病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

4階建てのビルの2階から4階に位置している都市型のホームで、屋上には家庭菜園があり、利用者は日光浴をしたり、草花や野菜を栽培している。医療面では昨年創設された医療連携体制加算をとっている。環境の変化に影響を受けやすい認知症高齢者が、可能な限り継続してホームで生活できるように、日常的に健康管理を行ったり、看護師を配置して医療ニーズが必要となった場合に適切な対応や、利用者が重度化した場合には、併設病院の医師・看護師と連絡がとれる体制となっている。ホームは老年病研究所が運営する事業所で関連施設として病院、老人保健施設、訪問看護ステーション等がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>刃物や洗剤等の保管場所や管理方法は、検討され改善されている。しかし、ケアサービスについては、建物の構造上の問題や夜間の職員体制の問題等があり、保留となっている。前回指摘された点は、事故防止のためにエレベーターを暗証番号により開閉したり、避難階段の鍵を日常的に施錠していたり、利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴ができていない点であった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、各ユニットのケア担当者が中心になって記入し、管理者とともに作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地元自治会長、老人会長、市の職員、各ユニット毎の家族の代表が参加し、10名程で3ヶ月に1回行われている。主な討議内容はホームの行事や利用者の様子を報告し、意見交換を行い、地域との関係強化等に取り組みサービス向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安等は面接時や電話連絡の時にお聞きし、対応している。直接言えない場合もあるので、一階エレベーター前にご意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情相談窓口の連絡先を明記し、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは4階建てのビルの2階から4階に位置しているので、地域の方々が気楽に立寄れない構造になっている。ホームは運営推進会議を通して地域の行事等も把握できるようになったので、ホーム側から参加できそうな行事には参加したいと考えている。併設病院で行われる夏祭りは、地域の方々が楽しみにされる行事となっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは、その人らしく穏やかに生活できること、できる力を大切にすることを理念としている。しかし、地域生活の継続、地域との関係強化が謳われていない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるケアへの具体的なイメージを、理念に追加されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの目に付きやすい場所に理念を掲示し、管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会などの地域活動には参加していない。現在、運営推進会議を通して自治会や老人会の行事等の情報を得られるようになったので、今後はホーム側から地域の行事に参加する検討をしている。	○	事業所も地域住民の一員として、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果については、職員間で話しあい改善に取り組んだ。今回の自己評価は、職員の意見を聞き各ユニットのケア担当者が中心になって記入し、管理者とともに評価の意義を理解しながら作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、10名程のメンバーで会議を開催している。各ユニットの利用者家族の代表が、構成メンバーの一員となっている。ホームの行事や利用者の様子について報告し、意見交換を行い、地域との関係強化等のサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者には、運営推進会議等の連絡は行っているが市から事業委託等の依頼はない。市町村合併で細やかなところまで目が届かなくなるのではないかと危惧されている。	○	日頃からグループホームの取り組み等を伝える機会を作る働きかけを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	利用者の近況報告は、家族の方がホームに見えた時に伝えている。利用料の請求書は、毎月家族にホームに寄ってもらって手渡ししている。職員の異動は、ユニット入口に顔写真付きのボードを掲示しお知らせしている。	○	家族等への定期的な報告として、ホーム便りの発行を期待したい。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族等の意見・不満・苦情は、面会時や電話で個々に対応し運営に反映している。また意見箱を、一階のエレベーター前に設置している。外部の苦情処理に窓口についても、重要事項説明書に記載され説明をしている。現在、運動会等の家族参加の行事後に、家族同士が意見交換をする場を設け、それらを運営に反映していきたいと考えている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動は必要最小限に抑え、利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように配慮している。		h
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	運営者は職員の研修に積極的であり、研修受講者一覧表を作成し、全職員が交代で受講できるようにしている。研修終了後は復命書を作成し、全職員が閲覧できるようにし、共有されている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他のグループホームから実習の受け入れを行っている。今後は当ホームからの派遣を行い、同業者との交流を通じたサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にレクレーションなどに参加してもらって、雰囲気を確認してもらっている。話をすることが困難な方の場合には、家族の話をお聞きして本人の不安を取り除くように、家族に付き添ってもらったり、家から馴染みの物を持ってきてもらうなど、馴染みながらサービス利用ができるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、皮むき・食器拭き・洗濯物たたみなどの家事動作を利用者と一緒に行ったり、散歩に出かけたりしている。食事づくりをしながら、利用者に料理の作り方を聞いて参考にしたり、一緒に味見をして作り上げていくなかで、学び支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望が言える利用者には、その意向に添えるようにしている。希望を聞くことが困難な利用者の場合には、家族の方に相談しながら、思いや意向の把握ができるように利用者本位にカンファレンス等で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の普段の様子を観察したり、家族の意見を取り入れて担当者がケアプランを立て、週1回のカンファレンスで職員の意見を聞き修正し、利用者本位の介護計画を作成している。カンファレンスの内容は、各フロアのカンファレンスノートで閲覧できるようになっており職員が共有できるようになっている。介護計画は、作成後に家族に説明し、同意を得て署名をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っているが、状態の変化があった場合は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をしているので、利用者にとって負担となる受診や入院の回避・早期退院の支援等をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望があれば入居前のかかりつけ医の受診が可能であるが、家族の付き添いをお願いしている。併設病院の診療所から医師が、月に2回居宅療養管理指導で療養上の指導や助言を行い、利用者の健康状態の把握をされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合、ホームには機械浴槽等の設備がなく、また夜間には看護師が不在なので、現体制では対応は困難と考えている。重度化した場合は、隣接する老人保健施設・特別養護老人ホームの関連施設での対応を考えている。	○	利用者や家族が最後まで「ひまわり」を希望される場合の対応方法については実現できるように長い目で検討をしていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような対応はしないように職員間で確認し、声かけや会話に心がけている。利用者の個人情報は外部に出さないことについて、契約書に明記し徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れはある程度決まっているが、「ゆったり穏やかに」をモットーに時間にゆとりをもち利用者のペースにあわせて過ごせるよう心がけている。無理強いすることなく、利用者が参加するかしないかを決めてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・片付け・食器すすぎなどの一連の作業を通じて、利用者に力を発揮していただいている。また自宅で使っていた食器を使っていたり、職員一名が必ず同席して食事を摂ったり、外食に出かけたりと、食べることの楽しさを支援している。	○	職員一名と一緒に食卓を囲んでおられるが、他の職員の同席があれば、より家族的な雰囲気となりさらに食事を楽しむことができるのではないかと。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回日勤帯での入浴の機会を設けているが、利用者の一人ひとりの意向に沿った入浴の機会を設けていない。入浴を拒む人の場合は、しつこく言わず無理強いせずに清拭等の支援を行っている。	○	一人ひとりの生活習慣や好みに応じて入浴を楽しめるような支援を、期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「シート」を活用して利用者の情報を確認しながら、掃除、洗濯たたみ、食器ふきなど役割が発揮できる場面作りを行っている。また菜園までの散歩や菜園の収穫、歌、ぬりえなど楽しみごとの場面作りを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から、屋上の菜園に行って手入れをしたり、屋上にある長いすで日光浴をしたり、散歩等を行っている。また毎月、買い物、お花見、外食等を行って、希望される家族とともに外出する機会がもてるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の2階から4階が各ユニットになっている。エレベーターで1階まで降りて外にでてしまうと車の往来の激しい道路になっているため、危険性を考慮して暗証番号によりエレベーターが開閉するので利用者が一人で昇降することはできない。階段も同様に利用者の転落の危険を考えて常に鍵をかけている。	○	鍵をかけると利用者の安全性は増すが、鍵をかけることの弊害も多いので、鍵をかけないケアの実践方法について時間をかけて検討していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定した避難訓練を、年に2回行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取の状況は、チェック表に記録し全職員がわかるようにしている。変化のある時には、看護師に報告したり往診時医師に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間と調理場に仕切りがなく開放的な作りとなっている。窓も大きく、外の景色が望め季節がわかるように配慮されている。室内には、季節の花を置き居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、家庭から持参した整理ダンスや観葉植物、仏壇、絵、写真などが飾られ、居心地よく過ごせるよう配慮されている		